

新たな時代における大学のあり方とは

Masaaki NISHIJO **西條正明** 文部科学省 大臣官房審議官 (科学技術・学術政策局担当)



はじめに

産業構造が「資本集約型」から「知識集約型」に大きく変わる中、「知の拠点」としての大学への期待が高まっている。一方で、少子化の進行や国際情勢の激変など社会の大きくかつ急速な変化に伴い、我が国の大学を取り巻く環境も激変しており、これに対応するための「今後の大学のあり方」が、まさに今、問われている。

高等教育局担当審議官を経て、現在科学技術・学術政策局担当審議官として業務に従事している筆者の経験を踏まえ、高等教育政策と科学技術・イノベーション政策の両面から今後の大学のあり方に関する文部科学省の取組みの現状を紹介するとともに、この課題にどう向き合っていくべきか、考えてみたい。

大学を取り巻く状況

本年2月に公表された昨年の「出生者数(速報値):約76万人」は、急激な少子化の進行を示すデータ¹⁾として、衝撃をもって伝えられたことは記憶に新しい(本年6月公表:概数値73万人)²⁾。これは統計を開始した1899年以降で最少の数値であるが、この急速な少子化の進行は言うまでもなく今後の大学進学者数に大きな影響を与えるもので、大学進学率の伸びを加味したとしても、2040年代には現在の大学の入学定員より10万人以上少ない50万人前後で推移すると推測されている³⁾。

加えて、急速な少子化の進行以外にも、我が国の国際競争力の変化や社会環境の変化も大学における教育研究に大きな影響を及ぼしている。例えば、平成初期には1位であった世界競争力ランキングにおける日本の順位も昨年時点では35位と大幅に低下している⁴⁾ほか、世界のGDPに占める我が国の比率も2060年には2000年の1/3以下の2.7%になると推測されている⁵⁾。このような少子化や国際的なプレゼンスの低下が現実の問題となる中、国内のみならず国外も含めた人材育

成が不可欠となるが、その一方で国際的な人材獲得競争も激化している。このように舵取りが非常に難しい状況の中で、今後の人材育成を担う大学の役割はますます重要になると考えられる。さらに、「研究」面に着目すれば、近年、我が国の研究力の低下が指摘されており、2000年頃までは3位前後で推移していたTop10論文数も、昨年8月に公表された最新値において13位にまで低下し、イランに抜かれたと大きく報道された⁶⁾。このデータのみで判断することの是非は別としても、少子化で人口が減り、学生も教員も減少すると考えられる中で、いかに我が国の研究力を維持向上させていくかは極めて重要な課題である。

高等教育政策としての取組み

①大学・高専等の成長分野への転換を支援する基金の創設

令和4年5月の教育未来創造会議第一次提言を受け、同年補正予算により、成長分野を牽引する大学・高専の機能強化に向けた継続的な支援を行うための約3000億の基金が創設された。これは、大学における教育力強化という観点からの初の基金であるのみならず、学部転換など大学が自ら行うべき組織改革を国が方針を示して後押しする初の支援策で、制度および規模の両面において、これまでに例のない取組みであり、社会から期待される成長分野の人材育成の大きな後押しとなっている。

②「将来社会を見据えた高等教育の在り方」に関する中央教育審議会への諮問

前述した大学を取りまく状況を踏まえ、将来を見据えた大きな議論も始まっている。昨年9月に中央教育審議会に対し「急速な少子化が進行する中での将来社会を見据えた高等教育の在り方」が諮問され、①2040年以降の社会を見据えた高等教育が目指すべき姿、②今後の高等教育全体の適正な規模を視野に入れた、地域における質の高い高等教育へのアクセス確保の在り方、③国公私を設置別などの役割分担の在り方、④高

等教育の改革を支える支援策の在り方、の4つの主な検討事項を中心に現在審議が行われている。諮問に際し、盛山文部科学大臣は「今、学校で学んでいる子供たちが社会の中心となって活躍する21世紀半ばの社会は、あらゆる側面において、これまでの日本社会の仕組みの延長線上では対応できない事態に直面することが想定され、我が国の高等教育は、今まさに歴史の転換点に立っている⁷⁾との認識を示し、これまでの延長線にはない、抜本的な対応を求めている。

科学技術・イノベーション政策としての取組み

①大学ファンドと地域中核の取組み

我が国の研究力低下が指摘される中、大学の研究力強化は喫緊の課題である。政府としては近年、大学、特に研究大学に対する支援の抜本的な強化を図るため、世界に伍する研究大学を目指す国際卓越研究大学の創設に向けた支援として大学ファンド(10兆円ファンド)を創設するとともに、特色ある強みを持ち、成長する研究大学群の形成を図ることが国全体の「研究力」を高める上で不可欠との観点から、地域の中核となる大学や特定分野に強みを持つ大学など、実力と意欲を持つ多様な大学の機能を強化するための「地域中核・特色ある研究大学総合振興パッケージ」をとりまとめ、一体として強力に推進している。これらの取組みについては、すでに本誌4月号で文部科学省の馬場氏が紹介している⁸⁾ので、詳細については同稿を参照いただきたいが、政府として、大学の研究力強化に向け、過去にない規模の投資に取り組んでいる。

②次期科学技術・イノベーション基本計画に向けた検討

科学技術・イノベーション政策の大きな議論としては、第6期科学技術・イノベーション基本計画が4年目を迎える中、次期基本計画に向け、政府における検討が今後動き出すこととなる。AIをはじめとする先端研究の進展速度の増大や国際情勢の変化、さらにはCOVID-19等への対応に起因した“Trust in Science, Public Engagement”を巡る議論等、科学技術・イノベーションを取り巻く国内外の情勢がこれまでになく、大きくかつ急速に変化する中、我が国として科学技術・イノベーション政策をどのように展開していくのか、将来を見据えた、重要な議論が求められている。筆者は、本年4月末に約10年振りに開催されたOECD科学技術政策委員会閣僚級会合に出席する機会を得たが、会合では急激に変化する世界情勢等を背景に、気候変動などのグローバル課題、AIなど新興技術の急速な発達と影響への対応などに取組むため、科学技術・イノベーション政策の果たす役割が極めて重要との認

識が共有されるとともに、これに的確に対応するための変革的な科学技術・イノベーション政策の必要性や新興技術の先見的なガバナンスへの取組などが議論されたが、各国とも科学技術・イノベーション政策を国家としてより重視し、その強化に取り組んでいる様子がうかがえた。

「危機」を「チャンス」に

大学の普遍的な役割については、言うまでもなく教育基本法第7条に定められているとおり、①教育、②研究、③社会貢献であり、その自主性、自律性が尊重されなければならない。一方で、この普遍的な役割は維持しつつも、時代の要請、社会の要請に応えることも公共的機関としての大学の大きな役割であり、これまでもその時代ごとの要請に応じてきた。そして、今、産業構造が「資本集約型」から「知識集約型」に大きく変わる中、多様な知の結節点であり、最大かつ最先端の知の基盤である、「知の拠点としての大学」の重要性はますます大きくなってきており、これに伴い社会からの期待も高まっている。先に述べた教育、そして研究に対するかつてないほどの大きな投資は、その期待の表れであり、さらに、この先を見据えた、これまで経験したことのない、また、先の読めない将来に対してどう向き合っていくか、という大きな議論が、教育・研究の観点からも展開されようとしている。今こそ大学には、社会の要請に応えるのみならず、さらに一歩踏み出し、将来の社会を自ら提案する「攻め」の姿勢が必要なのではないか。まさに、未来を創る主要プレーヤーとしての大学のあり方が求められている。今、学会員をはじめ関係者の皆さんが自分事として、危機感を共有しつつも、この大きな変換点を、未来を創る・リードする大学へと変革する大きな「チャンス」としてとらえて、ぜひ議論に積極的に参加いただき、ともに検討を進めていけたらと考えている。

- 1) 厚生労働省、人口動態統計速報(令和5年(2023)12月分)。
- 2) 厚生労働省、令和5年(2023)人口動態統計月報年計(概数)の概況。
- 3) 文部科学省、中央教育審議会(第137回)配布資料【資料1—3】、p.21。
- 4) IMD World Competitiveness Ranking 2023。
- 5) a) World Bank, World Development Indicators; b) OECD, The Long Game: Fiscal Outlooks to 2060 Underline Need for Structural Reform。
- 6) 文部科学省 科学技術・学術政策研究所、科学研究のベンチマーキング2023(2023年8月)。
- 7) 文部科学省、中央教育審議会(第137回)議事録。
- 8) 馬場大輔、化学と工業 2023, 77, 261。

© 2024 The Chemical Society of Japan

ここに載せた論説は、日本化学会の論説委員会が依頼した執筆者によるもので、文責は基本的には執筆者にあります。日本化学会では、この内容が当会にとって重要な意見として掲載するものです。ご意見、ご感想を下記へお寄せ下さい。
論説委員会 E-mail: ronsetsu@chemistry.or.jp